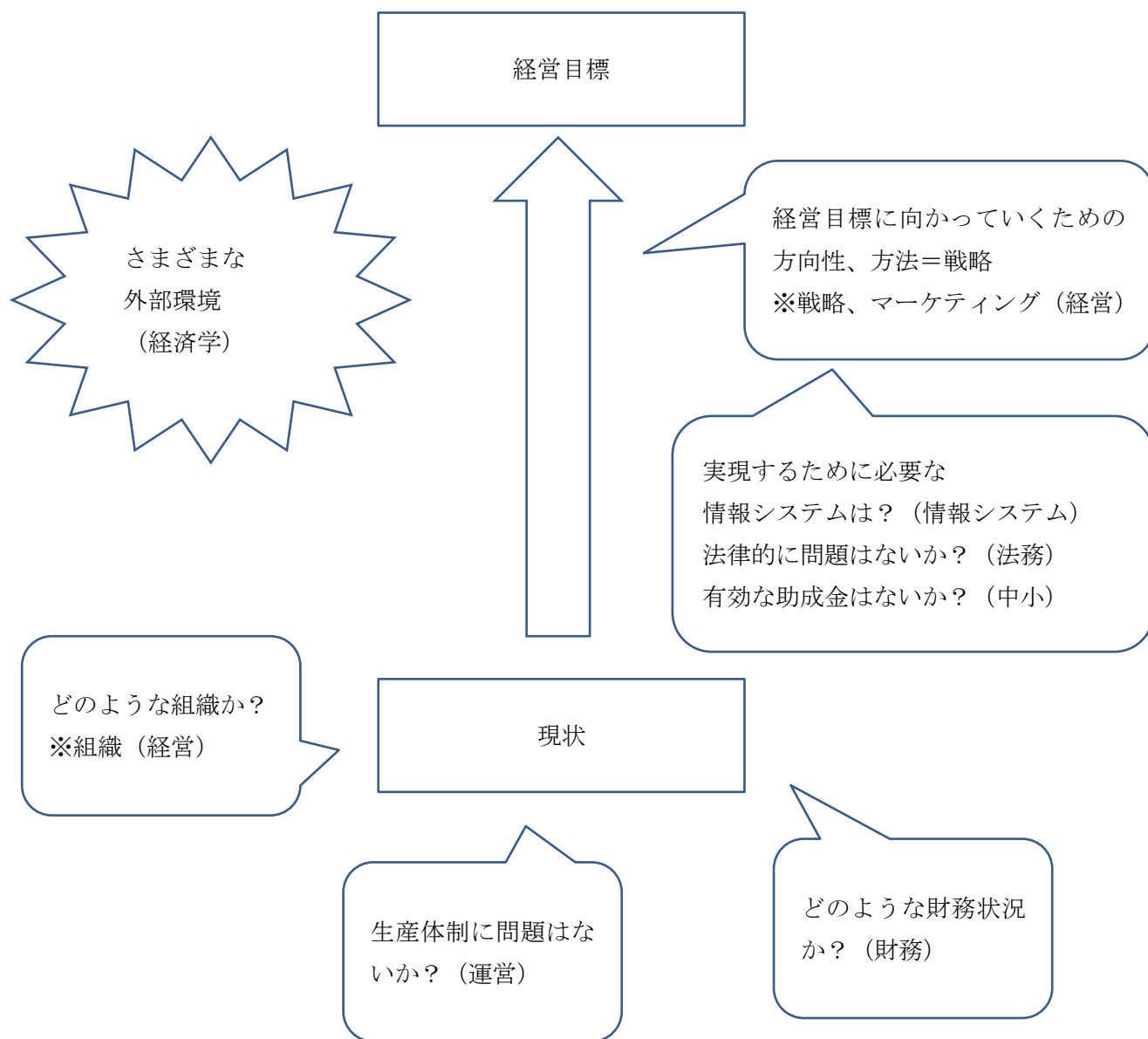


★企業活動の概要と科目の関連のイメージ例



経営目標を達成するためには、その企業をさまざまな角度から分析することが重要になってきます。これから皆さんが学習する「経営情報システム」、「経営法務」、「中小企業経営・政策」は、経営目標を達成するための戦略実行において重要な役割を果たしてくれる知識 (科目) とイメージするとよいでしょう。

★事前知識

これから 3 科目を学習するにあたって、知っておいたほうがよい知識（用語）を簡単に説明します。主に「財務・会計」で学習する内容になります。

※「中小企業経営・政策」で必要になってきます。

○貸借対照表 (B/S)、損益計算書 (P/L)

企業の財務状況や収益状況を表したものを貸借対照表、損益計算書といいます。

家計簿やおこづかい帳をイメージしてみましょう。収入（給与やおこづかい）があり、その収入の中で「洋服代 10,000 円」「食費 30,000 円」「飲み代 5,000 円」「家のローン 80,000 円」といったように、「何にどれくらい使ったか？」ということを記載しますよね。企業の会計においても同様のことを行います。

ただし、家計簿やおこづかい帳であれば、どのような出費であっても区別なく「〇〇に△△円」というように記載することが多いと思います。企業の会計においては、基本的には「〇〇に△△円」となりますが、おおよそ以下のように分けるルールになっています。

- | | |
|---------------|-----------|
| ①形が残るもの（財産） | →貸借対照表に記載 |
| ②形が残らないもの（費用） | →損益計算書に記載 |

このように、2 種類の家計簿があるとイメージしておきましょう。以下、簡易な貸借対照表、損益計算書となります。

【貸借対照表】

(財産)	(負債)
	(純資産)
現金	短期借入
商品	長期借入
車両	など
建物 など	資本金 など

※短期借入…1 年以内に返済する借入金
長期借入…1 年を超えて返済する借入金

【損益計算書】

売上高	1,000,000
売上原価	600,000
売上高総利益	400,000
販管費	300,000
売上高営業利益	100,000
支払利息	20,000
売上高経常利益	80,000
法人税	32,000
当期純利益	48,000

○主な用語

「中小企業経営・政策」において、以下の用語が出題されます。「経営指標」と呼ばれるもので、企業の財務状況を「数値」で表したものになります。「財務・会計」では主に、各経営指標の数値を算出させることが多いですが、「中小企業経営・政策」では、「ある経営指標において、中小企業と大企業を比べた場合、どちらのほうが高いか（低いか）」というような出題が典型例です。

また、各経営指標は必ず分母と分子で表されます。例えば、「クラス全体に対する女性の比率」という場合、

クラス全体 ……50 人

女性 ……20 人

であれば、50 人に対する 20 人となるため、 $20/50$ （人）＝40%となります。

※分母と分子を構成する項目（勘定科目といいます）には、複数存在するのが通常です。

例えば、当座比率の分子の当座資産には現金の他、預金、売掛金なども含みますが、ここでは代表的な項目で紹介しています。詳細な勘定科目については「財務・会計」で学習しましょう。

経営指標	概要	よい状態
① 当座比率	短期借入金に対する現金の割合。	高
② 自己資本比率	すべての財産（総資本）に対する自己資本の割合。	高
③ 売上高経常利益率	売上高に対する経常利益の割合。	高
④ 総資本回転率	1 年間の売上に対して、どれくらい総資本が回転したか（1 年間でどれくらい総資本を使ったか）。	高
⑤ 借入金利子率	借入金に対する利子の割合。	低
⑥ 付加価値率	売上高に対する付加価値額の割合。	高
⑦ 労働生産性	従業員 1 人あたりの付加価値額。	高
⑧ 労働装備率	従業員 1 人あたりの有形固定資産額（車両など）	高
⑨ 固定長期適合率	長期借入と自己資本で、どれくらい固定資産（建物など）を補っているか。	低
⑩ 債務償還年数	借入金をどれくらいの期間で返済しているか（式は覚えなくて良いです）。	低（短い）

※高…高いほうがよい。

低…低いほうがよい。